

ヨーロッパ現代思想で読む英国小説

関連するSDGsの国際目標



人間文化学部 国際コミュニケーション学科

准教授

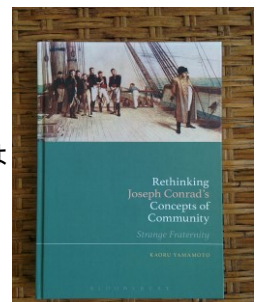
山本 薫

研究分野：英文学、英国小説、ヨーロッパ現代思想

概要：映画『地獄の黙示録』の原作『闇の奥』の作者である英国の小説家ジョウゼフ・コンラッド(1857-1924 ウクライナ生まれのポーランド人で仏を経由して渡英)の作品は伝統的に海洋冒険小説や心理小説として読まれてきましたが、ヨーロッパの現代思想の知見をてがかりにして、「英文学」の枠を超えたコンラッド作品の新しい解釈を試みています。

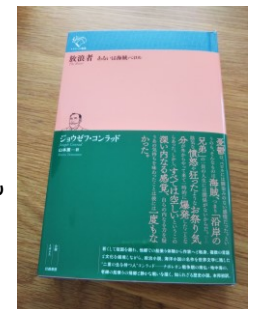
①コンラッド晩年の歴史小説の再評価と翻訳

長く忘れ去られていたコンラッド晩年の歴史小説を現代ヨーロッパの思想の新しい「共同体」や「歓待(hospitality)」(=他者の受け入れの問題)という観点から読み直し再評価しました。研究成果 *Rethinking Joseph Conrad's Concepts of Community* は『ハリー・ポッター』で知られる英国の出版社ブルームズベリー社から2017年に出版され、英国オックスフォード大学出版局の学術誌 *English* 誌、米『ポーランド・レビュー』誌その他学術誌上にて好意的な書評が掲載されています。



②コンラッド晩年の歴史小説 *The Rover* (1923) の翻訳

幻戯書房による多種多様な世界文学のシリーズ〈ルリユール叢書〉の一冊として、コンラッド晩年のナポレオン小説の翻訳『放浪者あるいは海賊ペロル』を2022年に出版しました。この作品はコンラッドの作品としてはほとんど知られておらず、これまで日本語に訳されていませんでした。アメリカのコンラッド協会会報 *Joseph Conrad Today* でも初の日本語訳として紹介されました。



③コンラッドの政治小説、高橋和久訳『シークレット・エージェント』(光文社古典新訳文庫 2019) 解説

コンラッド中期の政治小説 *The Secret Agent* (原作1907出版) は、1894年に起きたロンドンのグリニッジ天文台爆破未遂事件をもとに書かれた爆破テロの物語で、2001年に起きたアメリカ同時多発テロ事件(9.11)以降は爆破テロ小説の古典と言われたりします。

現在引き続きコンラッド文学の新しい解釈を国際学会で発表しながら、彼の傑作や伝記などを日本語に訳しています。



<特許・共同研究等の状況>

上記の研究は、すべて日本学術振興会科学研究費の助成を受けています。

採択課題

- * 「ジョウゼフ・コンラッド晩年の具象への回帰—パウル・クレーの境界線の美学をたよりに」
科学研究費補助金 基盤研究 (C) 2019年04月～2023年03月 (課題番号:19K00451)
- * 「コンラッドとマグリットにおける『狂気』と『赦し』:コンラッド初期小説群の再評価
日本学術振興会 科学研究費 平成28年度 基盤研究 (C) (課題番号:16K02457) 2016年04月～2019年03月
- * 「共同性なき共同体」の可能性:ジョウゼフ・コンラッド後期作品の再考
科学研究費補助金 基盤研究 (C) (課題番号:24520301) 2012年04月～2016年04月